

2022 年夏のオンライン高校生模擬裁判交流大会 実施要項

オンライン高校生模擬裁判選手権実行委員会

主催：龍谷大学札塾研究室・オンライン高校生模擬裁判選手権実行委員会

後援：京都教育大学附属高等学校模擬裁判同窓会、龍谷大学犯罪学研究センター、矯正・保護総合センター刑事司法未来PJ、龍谷大学法情報研究会

1 本大会のねらい

- ①模擬裁判に取り組む高校生の交流を図る。
- ②人間や社会への眼差しを深める文学（「国語的」）模擬裁判を味わう機会を提供する。

2 日時場所

8 月 13 日(土)

法廷：札塾研究室および伊東隆一弁護士（実行委員会）の Zoom（2 法廷で実施）および各自宅、学校（ZOOM）

3 出場校 8 校

4 競技方法

参加校は予め配布される文学教材シナリオ（後日発表）や関連資料をもとに、参加校が検察側・弁護側どちらかの立場に立って立証・弁護活動を行う。シナリオ創造型の模擬裁判である。

参加校は決められた時間に従い、立証・弁護活動を行い、審査員がそれらの内容を評価して、その総合点で勝敗を決める（検察側、弁護側どちらになるか、あるいは競技方法の詳細については締め切り後に連絡する）。得点の高い順から優勝校・準優勝校を決める。

5 採点基準

読解力、人間や社会への洞察力、論理性、表現力等の視点から採点する。

6 各チーム人員

1 試合に必要な生徒数は、検察側・弁護側いずれの立場でも最低 5 名とする（証人役、被告人役は生徒が行う。検察官役、弁護人役の生徒は証人役あるいは被告人役を兼ねることはできない）。

7 費用

参加費は無料。

8 準備活動について

参加校確定後、教材及び具体的なルールや実施方法を配信し、争点についての立証・弁護方針を定め、証人尋問・被告人質問の準備をする。模擬裁判初心者でも、模擬裁判を行うにあたり必要事項を学ぶ機会を設ける。7 月上旬より大会前まで週末を中心に授業を ZOOM で配信する。できる限り参加することを求めるが強制はない。参加できなかった高校には録画動画を送付するなど補填できるようにする。また初めて模擬裁判に参加するにあたって準備するためのサポート体制（諸国漫遊制度：オンラインでその学校の都合に合わせ指導に赴

く仕組み)を敷く。

参加校は8月6日(土)までに出場選手名(チームメンバー名)を主催者(委員会メール:後日説明)まで連絡する。

9 大会までの流れ

申し込み受理後、7月上旬をめどに教材を配信。

今後の予定(変更の可能性もあり)

7月9日(土) 14時～17時 伊東隆一氏(弁護士)による法律講義

7月10日(日) 14時～17時 札幌による作品講義。

講義終了後に組み合わせ抽選会。

7月16日(土) 14時～16時 山田悦子氏(甲山事件冤罪被害者)による人権についての講義

7月17日(土)以降 諸国漫遊

10 参加条件

次の条件を満たすこと。

- (1) 学校長の許可を得ること。
- (2) 趣旨に賛同できること。
- (3) ZOOMを利用できる環境を準備できること。
- (4) 保護者の同意を得ていること。

11 当日のスケジュール予定

9時15分 ZOOM入室可能

9時40分 開会式、出場校紹介

10時10分～12時10分 第1試合

13時20分～15時20分 第2試合

15時40分 講評

16時10分 成績発表、表彰式

16時半 終了、振り返り交流

※試合状況により、時間変更の可能性あり。

12 その他

免責事項について、準備授業や当日の試合のレコーディングを行うが、そのレコーディングの使用については研究および教育活動以外には使用しない(肖像権について差支えある場合は事前に連絡のこと。可能な限りの対応を考える)。教員に引率の義務は発生しない。

13 問い合わせ・申し込み先

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1

>>>> 龍谷大学大宮キャンパス西翼 129 号室
>>>> 札塾研究室 宛 TEL 075 - 343 - 3326 (研究室直通)
>>>> E-mail: fudafuda@let.ryukoku.ac.jp

14 申し込み締め切り 7 月上旬まで 先着順 (8 校になり次第、受付終了)

実施にあたっての Q&A

Q: 7 月上旬より大会前まで週末を中心に模擬裁判を行うのに必要な授業を ZOOM で配信するということですが、具体的にはどのような内容ですか。

A: 今回の趣旨は「公民科」で行うような単なる「模擬裁判」ではなくて、文学(「国語的」)模擬裁判となっています。もちろん、法律的な学習や思考についての授業も配信しますが、それだけにとどまらず、法の主体である「人間」や、「社会」を広く深く考える授業も配信します。12 月の本大会に向けては、たとえば裁判官、検察官、弁護士の法曹界のかたの授業だけでなく、冤罪被害者、演技表現指導の専門家、研究者のかたの授業など広く人間や社会を考える授業を配信します。法律的な面や論理的思考に重点を置いた模擬裁判とは違うところです。今回は法律、文学、人権の側面から 3 回の配信を予定しています。

Q: 配信される日時はいつでしょうか。この授業に都合で参加できない場合はどうなりますか。

A: 高校生の皆さんが視聴しやすい土日祝を中心に考えています。自宅で ZOOM を視聴できる環境が必要です。参加できない場合は後日録画動画を配信します。ただ、この授業は実際に ZOOM を通じて講師と皆さんが双方向でやりとりしながら、皆さんの質疑を大事にしながら講師の方々と皆さんと一緒に創り上げる授業にしたいと思っています。このオンライン選手権大会準備の「肝」にあたりますので、ぜひ都合をつけて皆さんの当日の参加を期待します。

Q: 「諸国漫遊制度」って何ですか？

A: 実行委員会(札塾、支援弁護士、司法修習生、法科大学院生、模擬裁判経験者)のメンバーがチームを組んで都合の良い日時を調整し、オンラインで模擬裁判のつくり方をレクチャーしたり、質問に答える仕組みです。

Q: 当日の試合を見ることはできますか？

A: できます。事前に申し込んでいただけたら当日の ZOOM の ID 等お教えします(学校関係者、保護者、一般、メディア関係者など)。

Q: ローカルルールはありますか。

A: ・審理の場で学校が独自に持ってきた資料を提示してよいか(例えば人体模型)
→禁止。対戦校が事前に見られないので。
・事前に配布した資料の提示について裁判官は行わない。
→共有権限を各学校に渡し、各学校で共有。
・学校でのサーバー落ち、個人の通信切断状況などへの対応。
→対応については裁判長が判断、指示する。
・1 人 1 画面で行う(1 画面に 2 人以上は不可)。

(講師略歴・講義概要)

7 月 9 日 伊東隆一氏 「模擬裁判のつくり方講座」

模擬裁判をどう作っていくか、どう考えていけばよいか、事実とは、証拠とは何か、など基本的なことを解説します。

1979 年東京都生まれ。白陵高校、一橋大学法学部、立命館大学法科大学院を経て司法試験に合格し、弁護士となる。授業者(札塾)とは 2013 年より国語科における法教育について協同研究に取り組む。2013 年から 2017

年にかけて京都教育大学附属高校（札幌の前任校）の支援弁護士として、同校模擬裁判チームを日本弁護士連合会主催の高校生模擬裁判選手権において、3回の優勝、2回の準優勝に導く。現在京都弁護士会広報委員会委員長、法教育委員会委員。奥村・岡田総合法律事務所所属。

7月10日 札幌和男氏 「模擬裁判のシナリオ作品解説」

模擬裁判とは何かを含めて、今回の教材となる文学作品やその舞台について文学的・文化的に解説します。

大阪府生まれ。慶応義塾大学法学部卒業。博士（文学・大阪大学）。現場での教員生活31年（中学校2年・高校29年）。そのうち担任20回。最初の3年間は社会科教員であった（国語・社会・英語の中高免許状所有）。2017年4月より岡山理科大学教育学部准教授として赴任し、2022年4月より龍谷大学文学部哲学科（教育学専攻）に准教授として着任。龍谷大学犯罪学研究センター兼任研究員。日本弁護士連合会主催の模擬裁判甲子園では、京都教育大学附属高校を過去11回大会中8回優勝3回準優勝に導く。「模擬裁判師」と名乗り模擬裁判を広めるために全国各地へ指導に赴く。模擬裁判指導歴は数百回に及ぶ。

7月16日 山田悦子氏「冤罪被害者が語る『冤罪の実態』と『法の温かさ』」

冤罪被害の体験を通じて、その実態や経験から生み出された人権や司法に対する考えについて講義します。

1951年富山県生まれ。1974年3月兵庫県西宮市の知的障害者施設・甲山学園で園児二人が死亡したいわゆる「甲山事件」の冤罪被害者。一人は事故死とされたがもう一人の園児については殺害されたとして当時、保母として当直をしていた山田さんが殺人容疑で逮捕された。事件発生から25年を経過し、99年9月に大阪高裁で三度目の無罪判決で漸く山田さんの無罪が確定した。起訴から21年の長い歳月を費やした。この事件では警察の強引な取調べ、犯罪報道の在り方などが問題となった。共著に『甲山事件 えん罪のつくられ方』（現代人文社）ほか。